

テオフィリン				701000	
				担当部署	
テオフィリン				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→薬物→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		添付文書において、採血管の分離剤の影響を受けることがあるとの記載があるが、当院採用の採血管においては影響は認められなかった。 血中薬物に対する分離剤の影響検討試験結果			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		トラフ、ピークなどの指示がある場合は、指示通り			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			

検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		設定なし			
臨床判断値		5-15 μ g/mL(治療有効濃度) ナピア TDM テオフィリン添付文書			
基準値				単位	μ g/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
5	15	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		テオフィリンには平滑筋の弛緩(気管支拡張、気管支のけいれんの抑制、肺血管拡張)、中枢神経の興奮(延髄呼吸中枢の興奮)、心筋興奮などの作用がある。本剤は治療域と中毒域の差が小さく、わずかな投与過剰でも心臓や消化器系に異常が現れるので注意が必要である。 健康成人に経口投与後、徐々に吸収され、約 7 時間後に最高濃度に達する。12 時間毎の連続投与では6回目の投与後にほぼ定常濃度が維持されるという。投与後 48 時間で代謝物として約 80%、未変化体として約 8%が尿中に排泄される。他のキサンチン系製剤や抗生物質、フェニトイン、フェノバルビタールなどと相互作用が認められるので重複投与の際は十分注意する。また、主に肝で代謝されるので、肝機能が低下している患者には血中濃度をみながら使用量を減らすなど慎重に投与を行なう。 三菱化学メディエンス 検査項目解説改訂第 4 版 202,2008			